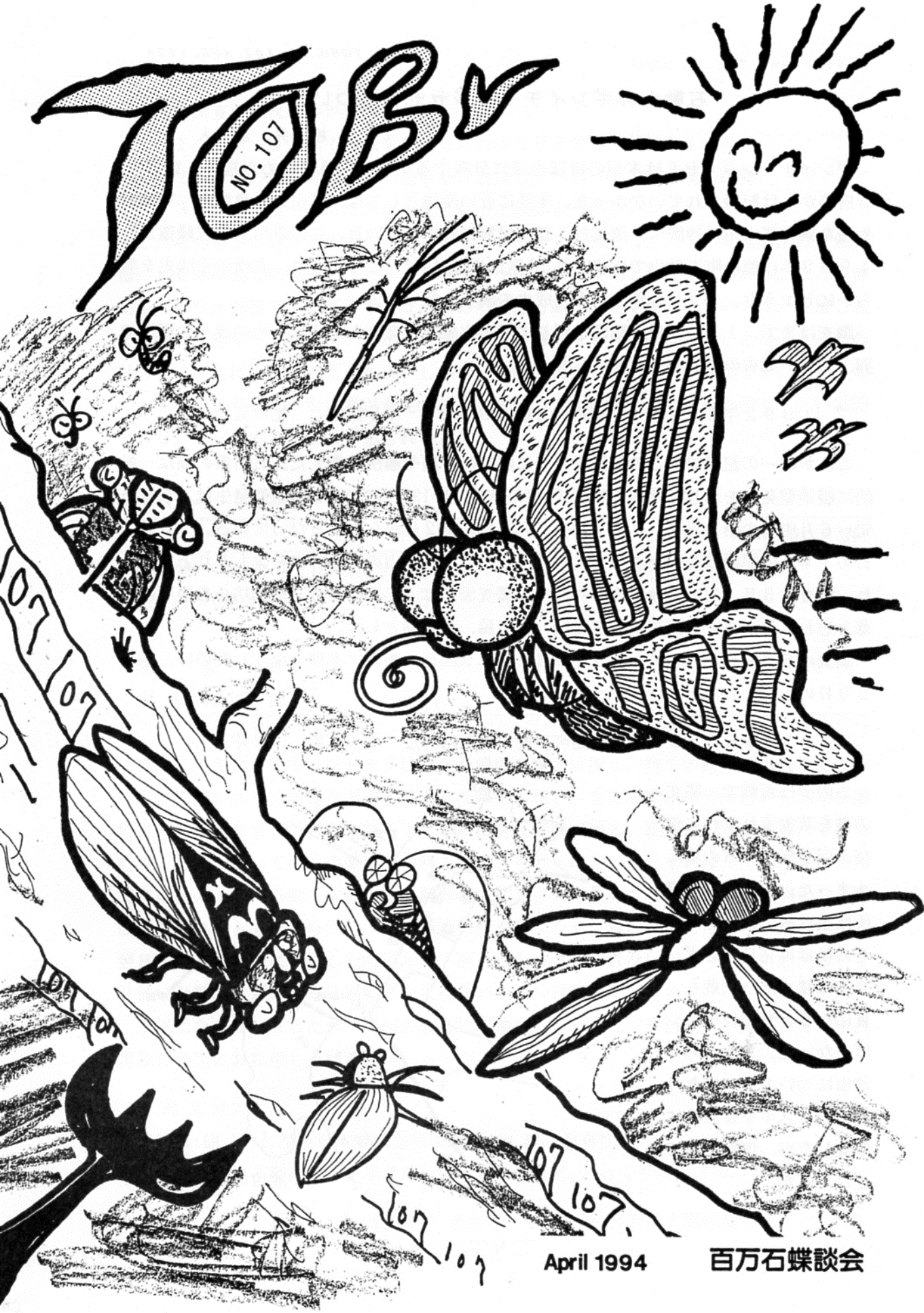
TOBY

NO. 107



April 1994

百万石蝶談会

石動山のギンイチモンジセセリについて

松　井　正　人

ギンイチモンジセセリは本州のほぼ全域に分布するが、石川県を含めた福井、京都の３府県からは記録されていなかった。本県に近い産地としては、富山県の魚津市、有峰湖や岐阜県の高山市、神岡町、清見村、荘川村等が知られている。この石川県未記録種が、１９９２年に鹿島町石動山で採集された(尾田良知,1992) ことにより、本種の生活史を明らかにしようと、１９９３年は幼虫、成虫の調査を行った。

調査はまず、１９９２年の記録を頼りに第１化の成虫発生を確認し、その後その周辺で卵、幼虫、成虫の調査をする事にした。

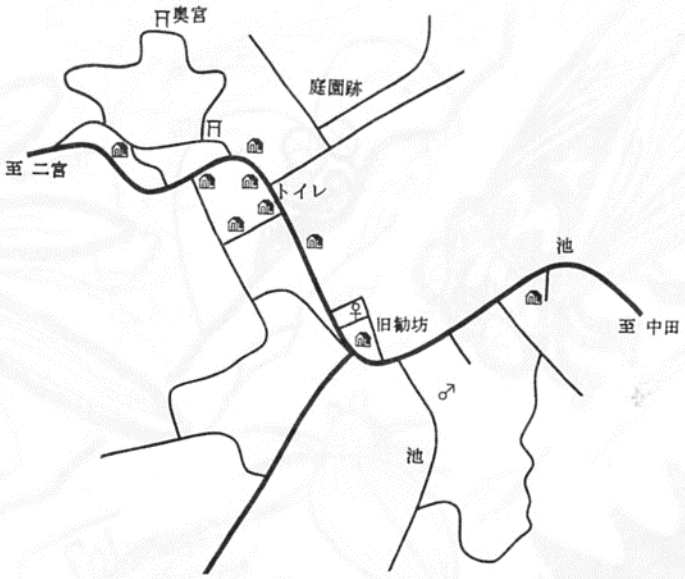
１９９２年６月３日　　鹿島町石動山旧勧坊　　１♀採集　　尾田良知

これが唯一の記録で、この記録を頼りに調査の日程や場所を考えた。石川県の蝶は一般的に暖地型発生を示し、蝶類生態図鑑(福田晴男・他,1984)によると暖地型発生は、５月上旬～６月中旬の第１化と、７月下旬～８月下旬の第２化からなるとなっている。「６月３日の１♀」の記録はこのパターンにあてまるので、石動山の発生パターンもこれと考えられ、調査は５月上旬から始める事にした。調査場所は、記録にある「旧勧坊」を中心に食草と思われるススキが繁茂する道路脇、水田脇、荒地等とした。

調査は５月９日から始め、９月１５日までに９回行ったが、本種を確認したのは、５月２９日の１♂のみだった。

１９９３年５月２９日　　鹿島町石動山旧勧坊付近　１♂採集　　松井正人

この♂は新鮮で、膝丈の叢を草丈すれすれに飛び、同じ高さの草の葉に止まった。この後この場所は重点的に調査したがその後は再発見できず、当初は膝丈だった叢も、夏になると背丈程のヨシ原となった。また、卵や幼虫についても日当たりの良いススキを重点的に調査したが、何も発見できなかった。



♂・♀：成虫の記録地を示す

今回の調査では次の事が分かった。

1．５月～９月間で成虫を確認したのは５月２９日の新鮮な１♂のみ

2．今回の記録地と初回の記録地は近接している（１００ｍ程の距離）

3．この付近一帯にはススキ原となった放棄水田が多い

これらの事から再び石動山のギンイチモンジセセリを考えると、１からは前出の生態図鑑にある寒冷地型の発生パターン、５月下旬～７月中旬の年１化も考えられる。ここの標高が４６０ｍ前後である事を思えば、この可能性も高い。発生場所については、近接した２か所から連年で記録され、しかも１頭は新鮮な個体（もう１頭は不明）となると、この付近での発生は十分に考えられる。しかし、今回の調査では１頭しか確認できなかったので、個体数は非常に少ない事が考えられる。またススキ原が広く見られるので、広い範囲に薄く分布していることも予想される。

発生パターンと調査日

	5　月	6　月	7　月	8　月	9　月
発生パターン(暖地型)	第　1	化		第　2　化	
発生パターン(寒冷地型)		年　1	化		
	↑ ↑ ↑ ↑	↑ ↑	↑	↑　↑	↑
調　査　日	8 15 23 29	3 9	4	7　29	15
成虫の記録	♂	♀			

最後に、ギンイチモンジセセリは特殊な環境の蝶では無く、誰もが簡単に出入りできる草原性の蝶であり、他種と混同するような蝶でも無い。また石動山は昔からの有名な採集地でもあり、今まで記録されなかった事には甚だ疑問が残る。既産地もかなり離れているので、最近になって近くの産地から移入したとも考えにくい。とすれば、何か特殊な条件で交尾済の１♀が石動山に移入し、産卵後に採集され、産卵されたものが翌年羽化し、再び採集されたとも考えられる。最近交通の便が良くなり、車内に閉じ込められた１♀が、翌日イスルギ神社に参拝した時に車外へ逃れたとは考えられないだろうか。可能性はかなり低いと思われるが、全く無いことでは無いのでつけ加えておきたい。

末尾になってしまったが、今回の調査にご協力いただいた、井村正行、澤田　博、中西重雄の各氏にお礼申し上げる。

《参考文献》

福田晴男・他,1984.原色日本蝶類生態図鑑Ⅳ.pp.373.保育社.

尾田良知,1993.石動山でギンイチモンジセセリを発見.とっくりばち,(60):7-8

《まつい まさと　〒920-01 金沢市大場町東８７１－１５》

石川県の糞虫相解明度は全国最低！

徳　本　　洋

昨年末に出版された「日本糞虫記」(塚本珪一,1993)を読んで、おったまげた。石川県の糞虫の解明度が、なんと日本一低いのである。

糞虫に情熱を傾ける著者の塚本珪一さんが、糞虫をとおして日本の自然を語ろうと、執筆されたこの本は、まさに糞虫百科事典ともなっているが、その中に全国各府県別の糞虫相解明種数の一覧表がある。これは府県別分布系の比較という表で、各府県ごとに大陸系・東洋区系・固有種系それぞれの種数とパーセンテージを並べてあるのだが、当然、そこに府県別の合計種数も記してある。それを見ると、南西諸島の66種と北海道の55種は別としても、多い所では栃木県の60種、千葉県の51種、東京と大阪の各50種とある。そして石川県は14種と、その表中の最低の数なのである。ちなみに日本産糞虫は 145種だそうである。

私と高羽さんとで、先に本紙に書いた「甲虫三千種への道」(1993)は、石川県の甲虫相解明度を高めるために、本会会員よ、一致協力、奮励努力せよ、との趣旨のものであった。そして石川県の甲虫相解明度の特に悪い部門をいくつかあげたのだが、その中には、確かにクソ虫類を弱い部門の一つとしてあげてはおいた。しかし、まさか全国最低とは思いもしなかった。

塚本さんが、何に準拠して石川県の糞虫の種類を14とされたのかは、お聞きしてみないとわからないが、たとえ、それが古い記録によるものだとしても、「最低」の汚名はまあまあ、甘んじなければならないのが現状かも知れない。これまでに出された石川県の昆虫相をまとめた唯一の出版物といえば、県環境部がつくったリスト(1978)であるが、これから糞虫を拾うと18種が数えられる。だから塚本さんの14種にかなり近いものである。

今はそれから16年も経過しているから、この際、現状を正確に把握しておくことは、それなりの意義があるであろう。

まず、県環境部リスト以後に、石川県内を研究の場とした糞虫についての、特に生態学的ないしは応用昆虫学的なまとまった報告が出されていることをあげておこう。その一つは県農業短大の富樫氏等が、能登の押水町の放牧場で誘蛾燈に飛来したフン虫類を調査した報告(1978)で、６種を記録し、その季節的飛来消長を調べておられる。もう一つは、これも富樫氏のもので、石川県の草地内の牛糞塊の分解消失に関与するフン虫類を調査して２科４属10種を記録し、それぞれの種の発生消長を２型に分類された(1980)。そして、その繁栄指数の解析からはカドマルエンマコガネが、またフン虫群集の解析からはオオマグソコガネ・カドマルエンマコガネ・オオセンチコガネの３種が、それぞれ糞塊処理に有効に働いているであろう、と推定された。なお、フン虫個体群は、草地内にある糞塊よりも、草の生えていない裸地にある糞塊のほうに多い、と記しておられるのも、採集を心が

ける人の参考になろう。

まとまった報告としては、このくらいであるが、とにかく、何やかやと断片的な報告が積もって、現在のもっとも新しい石川県産甲虫総目録である高羽さんのリスト(1992)では、糞虫は32種にまで増えている。

そしてさらに高羽さんのリスト以後に記録されたものとして入場　登氏(1993)のヌバタママグソコガネとホソケシマグソコガネ、同じく入場氏(1994)のニセマキバマグソコガネとマキバマグソコガネ、江口元章氏(1994)のエゾマグソコガネとセマルケシマグソコガネの６種がある。またこの他に上田　昇氏がヤマトケシマグソコガネを能登で取っておられ、本紙本号に詳細が発表されている。これで石川県に分布することが確かめられた種はどうにか39種となった。そこで、この数を塚本さんの府県別表の中に挿入してみると、石川県はどうにか26位まで上がる。もちろん、他府県でも日々解明は進んでいるだろうから、石川県の順位が本当に上がるかどうか怪しいものなのだが。

一昨年、みなで作った写真集「石川の昆虫」で松井正人氏は飛び立つオオセンチコガネの見事な写真をものにされた。これの撮影に至るたいへんな苦労が、その裏にあったことは、洩れ聞いている。心頭滅却すれば、クソもまたかぐわし。写真だけではなく、誰か、この石川の昆虫相の穴場「クソ虫」に熱を入れる方は出ないものだろうか。塚本さんによると、糞虫相解明度のトップ集団をいく府県では、必ず誰か一人、これに熱中している人がいるのだという。石川県の虫アマチュアは、クサイものにはフタ、という虫屋ばかりなのかナ？

この文を書くにあたり、いつものように高羽正治氏に石川県の糞虫解明現状確認について、たいへんお世話をおかけし、貴重な示唆を受けました。深く感謝します。

《参 考 文 献》

江口元章,1994.石川県初記録のマグソコガネ２種.翔,(106):10.

石 川 県,1978.石川県の自然環境,第４分冊:1-145.

入場　登,1993.石川県産甲虫の記録.アカハネムシ,(5):3-5.

————,1994.石川県産甲虫の記録.アカハネムシ,(7):3-4.

高羽正治,1992.石川県産甲虫類初出文献一覧表.石川むしの会特別報告,(6):1-98.

富樫一次・辰巳正彦,1978.石川県押水町の放牧場で誘蛾燈に飛来したフン虫類.北陸病害虫研究会報,(26):66-67.

富樫一次,1980.石川県の草地に生息するフン虫類.北陸病害虫研究会報,(28):2-6.

徳本　洋・高羽正治,1993.甲虫三千種への道.翔,(102):2-6.

塚本珪一,1993.日本糞虫記.pp.232.青土社.東京.

上田　昇,1994.石川県初記録のヤマトケシマグソコガネ.翔,(107):9.

《とくもと ひろし　〒921 金沢市泉野出町１－２－６》

石川県のカミキリムシ科（その１４）

井　村　正　行

222. クモガタケシカミキリ Exocentrus fasciolatus BATES

平地から低山帯に分布し、６月～７月に各種広葉樹の枯枝に集まる。特にフジ、ニセアカシア、ネム等のマメ科に好んで集まり、個体数も多い。普通種。ホストとしてフジ、ニセアカシア、ネム等を確認している。

1979年７月３日	多数	金沢市大浜	井村正行
1981年６月30日	２頭	金沢市土清水	井村正行

223. シラオビゴマフケシカミキリ Exocentrus guttulatus BATES

平地から低山帯に分布し、６月～８月に各種広葉樹の枯枝に集まる。特にフジ、ニセアカシア、ネム等に好んで集まり、これらマメ科の枯枝に普通に見られる。ホストとしてフジ、ニセアカシア、ネム等を確認している。

1980年６月15日	多数羽化脱出	加賀市吉崎	井村正行
1981年６月30日	２頭	金沢市土清水	井村正行

224. ケシカミキリ Sciades tonsus BATES

平地から低山帯に分布し、５月～７月に各種広葉樹の枯枝、枯蔓などのビーティングで採集されている。平地に多く、夜間に上記の場所を見回りすると、多くの個体を見ることができる。

1979年８月３日	１頭	輪島市曽々木	井村正行
1991年７月９日	１頭	金沢市大浜	井村正行

225. ルリカミキリ Bacchisa fortunei THOMSON

平地から低山帯に分布し、６月～７月に飛翔中の個体が採集されたり、ウワミズザクラのスウィーピングなどでも採集されているが、個体数は少ないようだ。筆者は平地の田園地帯、金沢市千田の神社境内でも採集している。ここにはウシコロシの林があり、これより発生したものと思われる。このような場所で採集できるとは思ってもいなかったが、以外と平地に広く分布しているかもしれない。

1986年６月29日	１♂	金沢市キゴ山	井村正行
1992年７月４日	１♀	金沢市千田	井村正行

226. トホシカミキリ Saperda alberti RLAVILSTSHIKOV

白山における１例の採集記録があるだけで、標本は大変りっぱな大型の♀であった。この記録は、分布の西限にあたる貴重な記録と思われ、追加記録が待たれる。白山山系の谷沿には、ホストとなるドロノキがたくさん見られる。

1969年７月22日	１♀	白峰村白山山頂	澤田　博

227. ヘリグロアオカミキリ Saperda interrupta GEBLER

２例の記録が知られるだけで、１例は翔NO.100にも報告した。この個体は筆者の目の前で採集され、標高1600m付近のアオモリトドマツが交じる伐採地を飛翔していた。残る１例は、「石川県の自然環境第４分冊」(1978)で扱われているが、詳細は分からなかった。

1992年８月19日	１♀	白峰村白山釈迦林道	中西重雄

228. ムネモンヤツボシカミキリ Saperda tetrastigma BATES

低山地からブナ帯にかけて採集されているが採集例は少なく、わずかに４例が知られるのみである。白山と倉ケ岳の採集は筆者によるもので、白山のものはサルナシのビーティング、倉ケ岳のものは夕暮れの吹き上げ個体であった。

1973年７月５日	１♂	白峰村白山釈迦林道	入場　登
1979年６月５日	１♂	金沢市倉ケ岳	井村正行
1979年６月10日	１♂１♀	白峰村白山釈迦林道	井村正行

229. ヤツボシカミキリ Saperda octomaculata BLESSIG

「石川県の自然環境第４分冊」(1978)に記録されているが、データ等詳細は不明。分布の西限になる記録なので、データの発表が待たれる。

230. ブロイニングカミキリ Saperda ohbayashii PODANY

低山からブナ帯に分布し、５月～７月にオニグルミの伐採木や生葉を後食中のものが採集されている。採集条件がそろえば、個体数は少なくない。確認したホストにはオニグルミがある。

1975年５月10日	１頭	金沢市倉ケ岳	入場　登
1991年６月23日	１♂１♀	白峰村市の瀬	井村正行

231. シナカミキリ Eutetrapha sedecimpunctata MOTSCHULSKY

白山のブナ帯に分布し、６月～９月上旬に各種広葉樹の伐採木や燈火に集まる。他県では普通だが、本県ではやや少ない。

1980年９月14日	１♀	白峰村白山釈迦林道	井村正行
1983年８月14日	１♀	尾口村白山岩間	野中　勝

232. ヤツメカミキリ Eutetrapha ocelota BATES

低山帯からブナ帯に分布し、７月～８月に各種広葉樹の伐採木や燈火に集まる。少ない。

1983年８月13日	１♀	尾口村白山岩間	野中　勝
1989年７月30日	１♂	尾口村白山岩間	野中　勝

233. ハンノアオカミキリ Eutetrapha chrysochloris BATES

白山のブナ帯に分布し、７月～８月に各種広葉樹の伐採木や燈火で普通に見られる。

1976年８月26日	１♀	白峰村白山釈迦林道	井村正行
1986年８月28日	１♂	白峰村白山釈迦林道	井村正行

234. フチグロヤツボシカミキリ Pareutetrapha eximia BATES

低山では５月頃から、ブナ帯では５月～９月上旬まで見られる。夕暮れ時にホオノキの伐採木や生葉を後食しているものが、採集されている。ホオノキを下から見上げると食痕がはっきり見えるので、採集の目安となる。時期が合えば、少なくない。確認したホストにはホオノキがある。

1978年９月２日	１♀	白峰村三谷	井村正行
1980年５月23日	３♂１♀	金沢市倉ケ岳	井村正行

235. ニセシラホシカミキリ Pareutetrapha simulans BATES

低山からブナ帯に分布し、５月～８月にサワフタギの生葉を後食しているものが確認されている。低山では、５月～６月、ブナ帯では７月～８月に見られ、夕暮れ時に前種と同様、後食痕を目安に道路沿いのサワフタギを見回れば、普通に見られる。

1979年６月24日	１♀	白峰村白山釈迦林道	井村正行
1986年６月29日	１♂	金沢市医王山	井村正行

236. ハンノキカミキリ Cagosima sanguinolenta THOMSON

平地からブナ帯下部に分布し、５月～７月にハンノキ類の生木に見られる。大木には余り加害が見られず、道路沿や荒地に生えた比較的若い木に加害が見られる。加害木は多数見られるが、意外と成虫は採集しづらい。上翅の赤斑が発達したものも見られ、時として上翅全体が赤色のものまで現われる。確認したホストには、ハンノキ、ヤマハンノキがある。

1984年６月９日	２♂１♀(羽脱)	金沢市俵	井村正行
1992年６月７日	１♀	内浦町坪根	井村正行

237. キモンカミキリ Menesia sulphurata GEBLER

低山からブナ帯に分布し、６月～８月に広葉樹の伐採木、伐採枝に見られる。また、オニグルミやサワグルミの生葉のスウィーピングでも普通に得られる。確認したホストには、オニグルミがある。

1990年６月24日	１頭	白峰村白山大杉谷	野中　勝
1991年７月７日	１頭	白峰村白山釈迦林道	野中　勝

238. オニグルミノキモンカミキリ Menesia flavotecta HEYDEN

平地からブナ帯に分布し、６月～８月にオニグルミの伐採木や生葉のスウィーピング等で採集されているが、個体数はやや少ない。確認したホストには、オニグルミがある。

1990年６月17日	１頭	白峰村白山大杉谷	野中　勝
1991年７月20日	１頭	金沢市犀川ダム	野中　勝

239. ジュウニキボシカミキリ Paramensia theaphia BATES

白山のブナ帯に分布し、７月～８月にセンノキの生葉のスウィーピング等で採集されているが少ない。しかし、センノキの生木についた３cm～４cmの枯枝を取ってくると、意外と多くの個体が羽脱してくる。確認したホストには、センノキがある。

1981年６月20~30日	多数羽脱	白峰村白山釈迦林道	井村正行
1982年７月４日	１♀	白峰村白山釈迦林道	井村正行

240. イッシキキモンカミキリ Glenea centroguttata FAIRMAIRE

1993年８月、入場　登氏によって初めて記録された(1993, アカハネムシ(3))。同氏によれば、クワの生葉に後食痕が見られ、後食に飛来したものを採集したとの事だった。

1993年８月１日	３頭	鶴来町樹木公園	入場　登
1993年８月15日	１頭	鶴来町樹木公園	入場　登

241. シラホシカミキリ Glenea relicta PASCOE

平地からブナ帯に分布し、５月～10月上旬に各種広葉樹の伐採木、伐採枝に見られる。リョウブ、ガクアジサイ、ゴトウズルの生葉のスウィーピングなどでも普通に採集される。

1980年６月29日	１♂	白峰村白山大杉谷	井村正行
1980年９月14日	１♀	白峰村白山釈迦林道	井村正行

242. シラホシキクスイカミキリ Eumecocera gleneoides GRESSITT

白山のブナ帯に分布し、６月～７月にシナノキの生葉を後食しているものが、採集されている。少ない。

1980年６月15日	２♂	白峰村白山釈迦林道	井村正行
1986年６月13日	１♀	白峰村白山釈迦林道	井村正行

《いむら まさゆき　〒920-01 金沢市湊２－１１６－７０》

石川県初記録のヤマトケシマグソコガネ

上田　昇

本紙先号で江口元章氏が石川県初記録のマグソコガネ２種を発表されたが(1994)、私も石川県未記録のマグソコガネを１種採集しているので報告する。

なお、同定していただいた高羽正治氏にあつく感謝します。

ヤマトケシマグソコガネ Psammodius (Leiopsammodius) japonicus Harold

１９９２年９月１０日　石川県志賀町赤住　１頭採集　上田　昇

この日は、海浜性甲虫キバネキバナガミズギワゴミムシの採集を目的にしていたのだが、ずいぶん時間をかけて広範囲を探したにもかかわらず、ついに見つからなかった。そうこうしているうちに、ハエが群がっている打ち上げられた魚があったので、木の枝でその魚をひっくり返したところ、なんと、このマグソコガネがうごめいていた。本種の、このような腐魚肉に集まる習性については、過去に知られているかどうかは知らないが、今後注意すべきことである。なお、いっしょにいたハマヒョウタンゴミムシも、殺虫管に入れたことはいうまでもない。

能登の道は、磯釣り、特にチヌ（黒鯛）を狙って通い慣れている。冬場の磯釣りは、たとえ獲物がかからなくても、持参のワンカップ片手に、岩を覆っている磯の香り豊かな岩ノリをつまみながらの時間を楽しむという手もある。思い出多い能登半島だが、このフン虫もまた新しく、わが脳アルバムに加わった。

《参考文献》

江口元章,1994.石川県初記録のマグソコガネ２種.翔,(106):10.

《うえだ のぼる　〒920-01 金沢市百坂町イ２７－９》

短　報　２７

アサギマダラ	１９９３年８月　３日	金沢市専光寺海岸	１頭目撃	松井正人
ウスイロコノマ	１９９３年８月１０日	金沢市神谷内	１♀採集	入場　登
ウスイロコノマ	１９９３年８月２８日	富来町鹿頭	１頭目撃	松井正人
コヒオドシ	１９９３年８月２９日	白峰村白山血の池付近	１頭目撃	竹谷宏二

石川県のセミの記録

松井正人

セミは各地に多く、その鳴声は春早くから秋遅くまで聞かれる。その昔、ニイニイゼミの声で虫の季節の訪れを思い、ヒグラシの大合唱で夏休みの終わりを寂しく感じていた。ミンミンゼミやツクツクボウシの鳴声は、小さな子供達でも知っている。この余りに身近な存在ゆえに、セミの記録はほとんど発表されず、ミンミンゼミさえ記録されていなかったと聞く。

筆者もその一人であったが、徳本　洋氏のすすめも有り、採集ノートに残されていたセミを記録として残したい。

記録者は総て筆者で、頭数の有るものは採集で、鳴声と有るものは鳴声だけで種を判断したことを示す。

《ツクツクボウシ》

１９８９年９月　９日	富来町高爪山	鳴声
１９８９年９月　９日	穴水町別所岳頂上	鳴声
１９９２年９月２３日	押水町宝達山頂上	鳴声
１９７２年８月　５日	金沢市国見山	鳴声
１９８６年８月　９日	尾口村岩間口～新岩間温泉	２♀（燈火に飛来）

《チッチゼミ》

１９８０年８月２４日	尾口村新岩間～岩間	１♀
１９７２年９月２３日	白峰村谷トンネル	７♂

《コエゾゼミ》

１９７８年８月２０日	金沢市赤摩木古山～見越山	１♂
１９９０年７月２９日	尾口村一里野～長倉山	１♂

《エゾゼミ》

１９８９年９月　９日	輪島市高洲山山頂	１♀
１９９１年９月１６日	押水町宝達山山頂	１♂１♀

《ミンミンゼミ》

１９８９年９月　９日	輪島市高洲山山頂	鳴声
１９８９年９月　８日	押水町宝達山山頂	鳴声

《ヒグラシ》

１９９１年７月２８日	押水町宝達山山頂	１♂１♀
１９７１年７月２８日	金沢市別所～小原	鳴声
１９９２年７月１６日	金沢市キゴ山	鳴声

《ニイニイゼミ》

１９７１年７月１４日	金沢市天池	鳴声

《まつい まさと　〒920-01 金沢市大場町東８７１－１５》

では採集に出るのが、おっくうになろうというもの。これまで土日はもとより、天気が良い、仕事が手につかない等と理由を付け、採集に出ていたのに、これでは時間を持て余してしょうがない。こんなオジサンが何をしているかと思えば、エレキギターをひいていた。似た境遇のオジサン達とバンドを組んだとかで、名前はたしか「トショリヒヤミーズ」だったと思う。

求む・セミの記録・求む

県内のセミの記録がほとんどない。普通種すぎて誰も発表しないのが原因らしいが、記録は鳴声だけでもOKで、すこぶる簡単。まずは四月のハルゼミから、詳しくメモして徳本氏に送ってほしい。

アカネコールで初記録続出

スギノアカネトラカミキリ用に開発された誘因型衝突板トラップがアカネコール。県内のスギノアカネを調べているのが、江崎、高田のアカネコンビ。アカネコールは強力で、スギノアカネとともに多種多様の虫がトラップに落ちるが、二人にとってスギノアカネ以外はゴミも同然。このゴミに、熱い視線が注がれ、アカネプロジェクトが発足しようとしている。このゴミ、未記録種満載の宝の山に間違いないだろう。

蝶談会のうわばみ二井三田

お酒を全く飲まない人の存在には気付いていたが、まさか蝶談会に複数人いるとは知らなかった。逆に、たいそうお酒をたしなむ人もいることは知っていたが、やはり蝶談会に複数人いるとは知らなかった。漏れ聞こえてきた話によれば、俗に二井三田と呼ばれる、うわばみがいるらしい。

野中氏の招きにあいて…

「オオクワがボロボロ採れる」との甘い誘いにのせられた3人は、二月十八日の夜、名古屋は野中氏の元へ向かった。翌日は快晴のポカポカ陽気に恵まれ、オオクワはあっさり落ちるとワクワクしていたが、いくら掘ってもコクワしか現われなかった。

もはやこれまでと思われた時、あ～ら不思議、白馬に乗った正義の味方が登場。ローン・レンジャーこと地元のオオクワ通に色々とレクチャーを受け、日が傾く頃になってようやく2齢幼虫を掘り出した。甘い誘いのオオクワ採りはボロボロだった。

生物センサーで知る
ギフチョウ発生状況

北陸はギフチョウの早生地帯だが、この発生予想がなかなか難しい。桜の開花予報を利用するのが一般的だが、北陸ではかなりズレるので初見には利用できない。そこで思いついたのが、スギ花粉の飛散状況による発生予想。花粉の飛散状況には人間レーダーを使い、眼がかゆいと言い出したら発生は近い。そして、クシャミを連発するようになると、どこかで飛んでいる。ハナミズが止まらなくなり、頭がズシっと重くなる頃、ギフ、花粉ともに最盛期となる。

例会の記録

二月十一日（金）城南管工二階にて八時より開催。

たいへん寒い日で、部屋がちっとも暖まらず、ストーブを囲んでの会合となった。久々の吉村氏は、見せびらかし標本を持参し、野中氏は名古屋からオオクワ便りをTELしてきた。また、高田君は試験期間中にもかかわらず、余裕で出席し、生田試験官は毎日の緊張を解しにやってきた。

声を拾うと、「今は試験中、早く虫採りがしたい」「冷蔵庫の中は虫で一杯」「洞窟のポンプアップは雪が融けてから」「今度の土日は名古屋でオオクワだ」「クロコムラを採りにいこう」「代虫のゴマはたくさん採れた」「僕の代虫はクロコムラ」等でした。

参加は、生田、高田、中西、井村、松井、吉村、野中（TEL参加）の七人。

会員の動き・しゃばの動き

アリヅカムシがおもしろい

蟻の巣にいるものと思いこんでいたアリヅカムシ、なんと落葉の中にもたくさんいるらしい。このムシ、最近の状勢では二百種程度が県内から見つかる可能性がでてきた。まだ二十種程しか記録されていないので、三千種達成には案外近道かも知れず、どこかへ行くときは忘れずにフルイを持っていこう。

得意技は代虫後納システム

虫を金でやりとりするのを嫌がる虫屋にたいへん有効なシステムで、井沢商店の得意技。まず虫を見せびらかし、好きな虫をとらせ、代金ならぬ代虫は「××採ってきてよ」と相手によって虫を指定する。言われた方は、簡単に採れそうな虫なので、商談はすぐ成立する。いとも簡単な様に思われるシステムだが、売れ筋で相手が乗ってくる虫の名前をサラっと言う所が難しい。そして、ちょっとしたアドバイスをつけ加えるのがミソ。

シャープの次はイカリモン

富山産のシャープやメススジで水棲界を風靡した山口氏、ゲンゴロウに一息ついたのか、最近ハンミョウに手を出した。まずは、ハラビロ、カワラを手中に収め、次なる獲物は、イカリモンか？

突然、頭をまるめた江崎氏

縁起担ぎか、はたまた失恋か、きれいさっぱり頭を丸めた江崎氏。空港ストによって念願のイースター行を棒に振っていらい災難が続き、この冬は膝の故障で泣くに泣けなかった。これが原因とも思われるが、まだ若い氏の事、縁起を担ぐとも思われず、そうなると失恋説が浮上してくる。本人は何も語らないが、ただの詮索好きがまことしやかに噂を流している。

慣れない道具には御用人

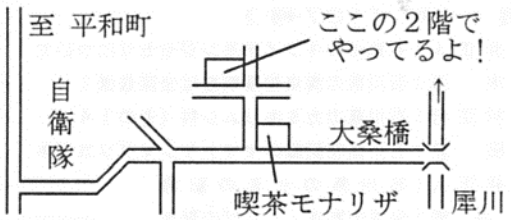
クロコムラの越冬幼虫採集で、手を切った話はよく聞くが、剪定バサミで枝と一緒に指を切ったり、ツルハシで朽木と一緒に膝を崩した話も聞いている。採集道具も、網からナタやノコギリを使うようになり、最近では発電機、水中ポンプ、チェーンブロックと、どんどん種類が増えている。慣れない物を使えば、思わぬ事故が起きるもの、皆さんくれぐれも注意しましょう。

ネットをギターに持ち替え

金沢から遠く離れた名古屋の地では、なかなか虫友も見つからない。さりとて息子も一緒に出たがらない。これ

翔　NO.107
1994年4月1日発行
百万石蝶談会
金沢市大場町東871-15 松井方
〒920-01　☎0762-58-2727
郵便振替　金沢5－562
印　刷　小西紙店印刷所

例会は偶数月の第1金曜日8時から
TEL参加もOKです(0762-44-3318)



目　次（107号）

松井正人：石動山のギンイチモンジセセリについて …… 1
徳本　洋：石川県の糞虫相解明度は全国最低！ …… 3
井村正行：石川県のカミキリムシ科（その１４） …… 5
上田　昇：石川県初記録のヤマトケシマグソコガネ …… 9
松井正人：石川県のセミの記録 ……10
編集部：会員の動き・しゃばの動き ……12